記者発表資料（５）

福　島　市

令和５年８月２３日

東北初！磐梯朝日国立公園のゼロカーボンパーク登録
～土湯温泉・高湯温泉～

環境省では、国立公園において先行して脱炭素化に取り組むエリアを「ゼロカーボンパーク」として推進しており、国立公園の利用拠点である土湯温泉・高湯温泉におけるサステナブルな観光地づくりの取組を広くＰＲするとともに今後の取組の促進を図る。

記

１．登録日

８月２３日（水）

２．ゼロカーボンパークの登録状況

・全国で１１件、１２市町村が登録
・東北エリアでの登録は初めて

３．ゼロカーボンパークに向けた「土湯温泉」、「高湯温泉」での取組

（１）再生可能エネルギー、省エネルギー設備の導入
温泉熱を利用したバイナリー発電施設、砂防堰堤を利用した小水力発電施設の整備など

（２）温泉熱の再利用
高湯温泉旅館の廃湯を利用した「無散水消雪道路」の整備など

（３）移動によるＣＯ２排出削減
MaaS の活用や再生可能エネルギーを活用した充電スタンドの設置など

（４）サステナブルな観光地づくりの推進
旅館のプラスチック製品アメニティの竹製品へ切り替え、有料化実施によるワンウェイプラスチックの削減など

（５）温泉地の魅力を高める体験学習
自然湧出、自然流下によるサステナブルな温泉利用、源泉の仕組み、効能を学ぶ体験学習ツアーの開催など

（６）「新・湯治」の推進
「土湯温泉」、「高湯温泉」ともに観光協会が「チーム新・湯治」へ参加し、温泉の保護、保養温泉地としての機能の充実、温泉の健康増進に資する利用の推進、自然景観や環境の維持保全の取組を実施

担当：環境課　温暖化対策推進係
課長　黒須　　係長　安倍
電話 024-525-3742

東北初！福島市土湯温泉・高湯温泉のゼロカーボンパーク登録

概要

環境省では、国立公園において先行して脱炭素化に取り組むエリアを「ゼロカーボンパーク」として推進しており、国立公園における電気自動車等の活用、国立公園に立地する利用施設における再生可能エネルギーの活用、地産地消等の取組を進めることで、国立公園の脱炭素化を目指すとともに、脱プラスチックも含めてサステナブルな観光地づくりを実現していくエリアです。
全国12番目、東北初の登録となります。

出典：内閣官房HP 地域脱炭素ロードマップ（概要）より

○ゼロカーボンパークの登録状況　※令和3年3月の開始以降、全国で11件、12市町村（令和5年4月末時点）

	登録年月日	地方自治体	国立公園	備考
第1号	2021.3.23	松本市	中部山岳	乗鞍高原
第2号	2021.6.25	志摩市	伊勢志摩	志摩市全域
第3号	2021.9.24	那須塩原市	日光	塩原温泉・板室温泉地区
第4号	2022.3.18	妙高市	妙高戸隠連山	妙高市
第4号	2022.3.18	釧路市	阿寒摩周	阿寒湖温泉
第6号	2022.3.29	千歳市	支笏洞爺	支笏湖
第7号	2022.4.21	片品村	尾瀬	尾瀬かたしなエリア
第8号	2022.6.27	釧路市、弟子屈町、美幌町、足寄町	阿寒摩周	全国初の連名登録
第9号	2022.7.14	釧路市	釧路高原	全国初の2国立公園登録
第10号	2022.7.22	日光市	日光	奥日光地域
第11号	2023.4.18	廿日市市	瀬戸内海	宮島

東北初！福島市土湯温泉・高湯温泉のゼロカーボンパーク登録

※令和5年8月23日時点

1.「土湯温泉」「高湯温泉」と磐梯朝日国立公園

・福島市西部の吾妻連峰の東裾野に位置する「土湯温泉」、「高湯温泉」は、磐梯朝日国立公園の重要な利用拠点であり、古くから多くの人が訪れる温泉地である
・両温泉地を含む一帯は磐梯朝日国立公園に指定されており、周辺の自然資源は　極めて豊富であり、古くから保養温泉地としての歴史を持つ
・福島市は令和3年2月にゼロカーボンシティを表明

① 土湯温泉

国立公園ならではの自然環境や文化を活かし、サステナブルな温泉観光地を目指すため、「土湯アクション20－25」による取組を推進し、保養温泉地としての魅力向上を図っている。東日本大震災からの復興再生のため、小水力発電やバイナリー発電を通じ、再生可能エネルギーによる地域おこしに取り組んでいる。

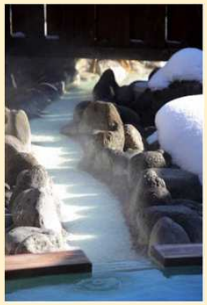
▲秋の土湯温泉街

▲土湯温泉源

② 高湯温泉

江戸時代から続く全国でも希少な温泉の泉質で、温泉街すべての浴槽が自然湧出に加え、機械による汲み上げをせず、源泉から各旅館まで自然の地形を活かした自然流下で引湯されている。平成22年6月には東北で初、全国で9番目となる「源泉かけ流し宣言」を行い、開湯以来 400 年続く“ありのままの本物の温泉”をかけ流しで提供している。

▲高湯温泉全景



▲高湯温泉

東北初！福島市土湯温泉・高湯温泉のゼロカーボンパーク登録

※令和5年8月23日時点

2. ゼロカーボンパークに向けた「土湯温泉」、「高湯温泉」での取組

①再生可能エネルギー、省エネルギー設備の導入

・温泉熱を利用したバイナリー発電施設、砂防堰堤を利用した小水力発電施設を整備
・各種補助金を活用した温泉旅館への省エネ機器の導入

▲温泉熱を利用したバイナリー発電施設

▲土湯温泉町東鴉川小水力発電所

②温泉熱の再利用

・バイナリー発電の冷却水と温泉熱を再利用して養殖した「つちゆ湯愛（ゆめ）エビ」の釣り体験実施
・高湯温泉旅館の廃湯を利用した「無散水消雪道路」の整備

▲「つちゆ湯愛ゆめエビ」の釣り

▲無散水消雪道路

③移動によるCO2排出削減

・MaaSの活用や再生可能エネルギーを活用した充電スタンドの設置
・「クリーン・モビリティー」を運行させることで PARK and RIDE の実証実験を計画（土湯・高湯温泉郷国民保養温泉地計画書）

▲再エネ電力による充電器（道の駅つちゆ）

東北初！福島市土湯温泉・高湯温泉のゼロカーボンパーク登録

※令和5年8月23日時点

④サステナブルな観光地づくりの推進

・旅館のプラスチック製品アメニティの竹製品へ切り替え、有料化実施によるワンウェイプラスチックの削減
・観光客へのマイバック、マイボトル利用の推奨による プラスチックゴミの削減

▲オリジナルマイバックの作成

▲竹製品のアメニティ導入

⑤温泉地の魅力を高める体験学習

・自然体験の場として春から秋には「女沼」にてSUP・カヤック体験、冬は「土湯峠地区」にて雪山体験を実施
・自然湧出、自然流下によるサステナブルな温泉利用、源泉の仕組み、効能を学ぶ体験学習ツアーを開催

▲SUP・カヤック体験

▲高湯温泉の源泉見学会

⑥「新・湯治」の推進

・「土湯温泉」、「高湯温泉」ともに観光協会が「チーム新・湯治」へ参加し、連携を図りながら、温泉の保護、保養温泉地としての機能の充実、温泉の健康増進に資する利用の推進、自然景観や環境の維持保全の取組を実施

▲元気になれる温泉地での様々な過ごし方
（出典：環境省）

3. 環境省における対応

・東北地方環境事務所による伴走支援を進め、国立公園満喫プロジェクトの取組とも連動しながら、福島市の地域脱炭素化等の取組を後押し